

# 令和4年度特別の教育課程の自己評価結果について

東通村立東通小学校

本校は、東通村学校教育の指導の方針と重点の柱の1つである「英語教育・国際理解教育」を通し、「実践的コミュニケーション能力の育成」の充実に取り組んでいます。

平成19年度より英語教育特例校として、村独自のカリキュラムにより、小学1年生から6年生まで、英語の授業を教育課程に組み入れて実践しております。これは、社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められている状況下において、英語を通じて、言語や文化に対する関心と理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、国際社会に対応できるコミュニケーション能力を育成するために、低学年から英語教育実践に取り組んでおります。今後、更に子どもたちのコミュニケーション能力の向上を目指し、児童、保護者、教育関係者に対し、本校英語教育についてアンケート調査等を行い、その結果をもとに取組を振り返り、より効果的な学習指導の充実に努めていきたいと考えているところであります。

本校教職員は「英語教育・国際理解教育を通したコミュニケーションの育成ができた。」という質問に対し、「はい」の回答が91%、本校保護者は「学校は英語教育・国際理解教育の推進に努めている。」という質問に対し、「はい」の回答が79%でした。本校児童へは①「英語の授業は好きですか。」、②「英語のどの活動が好きですか。」、③「これからの英語学習や、英語を使ってしたいことについて、どのように思っていますか。」、④「英語の授業の中で、英語は苦手だ、難しいと感じることはありますか。」という質問項目でアンケート調査を実施しました。①に「はい」と回答した児童は、91.7%、②では、英語を書く活動が好きと回答した児童が最も多く77.4%でした。③では、英語をもっと話せるようになりたいと回答した児童が最も多く、84.2%でした。次いで、英語をもっと聞き取れるようになりたいと回答した児童が77.4%でした。一方、④では、英語で話している内容を理解するのが難しいと回答した児童が65.3%で最も多く、次いで、英語で話をするのが難しいと回答した児童が58.4%でした。

以上のことから、教職員、保護者、そして、児童ともに、英語学習及び英語教育について、肯定的に捉えていることが分かりました。ただ、児童は「英語は好き」と思いながらも、もっと話せるようになりたい、英語の内容を聞き取ることが難しい、英語で話すことが難しいと感じていることも分かりました。

これらの結果を踏まえ令和5年度、本校では「小中一貫英語コミュニケーション力強化事業」の取組を再構築し、更に、子どもたちの英語に関する願いや苦手意識に寄り添った教育実践の充実に努めていきたいと思っております。まず第一に、「聞くこと」、「話すこと」の指導において更に充実した取組を計画しております。まずは、自分自身の発音を強化し、ネイティブに近い発音を習得することにより英語を聞き取る力も、話す力も向上するという認識を教職員で共通理解し、発音指導の強化に取り組んでいく予定です。その最初のステップとして、低学年の授業では、音声指導全般に重点を置き、中学年、高学年と学年があがるに従い、洗練された発音でアウトプットできるよう系統的な指導に努めていきたいと考えております。子どもたちがコミュニケーションの場で相手の話す英語を大筋で理解し、会話を継続できるようになること、自分の英語の発音に自信をもち、自分自身の英語が通じたという喜びを重ね、積極的に英語で人とコミュニケーションしたいと思う気持ちを高めていけるよう、指導を充実させていこうと考えています。